

事業名	漁場生産力向上のための漁場改善実証試験 (漁場生産力低下の原因解明)
予算区分	受託試験研究費
事業実施期間	平成30～令和4年度
担当者	(環境増養殖担当)朝田健斗、棚田教生、笠井謙太郎、嵐俊右、廣澤晃
共同研究機関等	水研機構、香川県、岡山県、愛媛県、香川大学

<目的>

紀伊水道西部及び周辺海域のノリ・ワカメ養殖漁場において、海水中の栄養塩(DIN)濃度等の現場観測を行い、漁場生産力低下との関係性を明らかにする。

<方法>

○栄養塩濃度等の現場観測

本事業報告書の「藻類養殖漁場環境調査」を参照されたい。

○養殖ワカメのSPAD値の測定

紀伊水道南部の阿南市今津地区における養殖ワカメについて、色調の指標となるSPAD値の測定を1/19から2/5にかけて定期的に行い、同時期のDIN濃度の推移と比較した。SPAD値は、藻体の最大裂葉の欠刻部から裂葉先端に向かって10cmの間で3カ所測定した平均の値を用いた。

<結果>

養殖ワカメのSPAD値は、測定開始時である1月中旬においてすでに4程度と低く、同月下旬にやや回復したものの、2月に入ると再び3程度まで大きく減少した(図1)。測定期間中のワカメのSPAD値が常に低く推移した要因としては、12月中旬以降の同海域のDIN濃度が2 $\mu$ M未満と低水準で推移していたためと考えられた。

<今後の課題>

特になし。

<次年度の計画>

R4で終了。

<結果の発表・活用状況等>

本試験の詳細については、「令和4年度漁場環境改善推進事業のうち栄養塩からみた漁場生産力回復手法の開発」成果報告書を参照されたい。

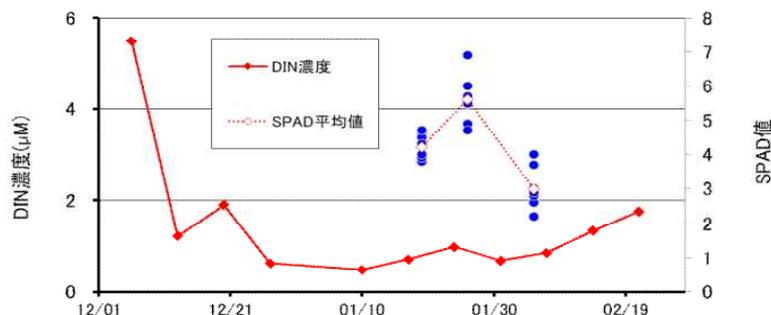


図1.2022年12月以降の紀伊水道南部のDIN濃度(  $\mu$ M)と今津地区のワカメのSPAD値の推移